

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホームともだちの家		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号 (電話) 0125-24-5055		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月18日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	11人, 非常勤 11人, 常勤換算 17.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造枠組み壁工法 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	12,480 ~ 17,520 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(2月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2	要介護2	11		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 82 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝川市立病院・滝川脳神経外科病院・男澤医院・橋本歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は開設して5年目を迎え、運営者は職員育成にも力を注いでおり、その中で利用者はゆったりと落ち着いて生活している。職員は積極的に研修を受講し、熱意を持って日々のケアサービスを実践している。また、行政や同業者とも連携を取り、意見交換や情報交換等を行い、事業所の運営に活かしている。また、地域住民による事業所来訪や、ボランティア活動を導入するなど、地域との交流を深めている。今後も、地域に開かれた運営が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における改善課題は特になし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめている。また、目的や課題を明確にし、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に運営推進会議を開催し、意見交換等を行っている。また、そこで得た意見や情報等を事業所の運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者家族対象のアンケートを実施し、結果を集約して家族に配布するなど、自己啓発に努めサービスの質の向上に取り組んでいる。また、家族の来訪時に職員は積極的な声かけをし、コミュニケーションを図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の行事参加を通じて地域住民との交流を図り、情報交換等を行っている。また、地域の同業者間の地域活動を活発に行うなど、地域との連携を密に図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時につくりあげた事業所独自の理念を掲げている。	○	現在、理念を再検討しているため、今後地域の中で支えていくことを盛り込んだ理念となることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に全職員で理念を唱和し、確認している。また、職員は常に理念を念頭におき、その実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事に、利用者と職員が一緒に参加するなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催し、様々な議題について話し合っている。また、構成員が事業所の行事に参加するなど、日常的な関わり合いを持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が主催する会議に積極的に参加している。また、市の担当者と日頃から相談等で連絡を取ったり、介護保険事業所ガイドブック作成時に情報交換を行うなど、連携を図りながらともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事業所便りとともに、利用者個々の便りを家族に送付し、利用者の生活の様子や健康状態等について家族に伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者家族を対象としたサービスに関するアンケートを実施し、家族の意見・要望等を聞き、日々のケアサービスに反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>全職員の顔写真を事業所内に掲示するなど、早期に馴染みの関係を築けるよう努めている。また、異動等があった場合は、便りにて家族に伝えるとともに、職員の配置を考慮し、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう努めている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員を新規採用する場合は、採用時研修を実施し、事業所の概要等について詳しく説明している。また、年間の研修計画を組み、研修に参加する機会を多く設けるなど、職員の資質向上に努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の担当者と協働し、介護保険事業者ガイドブックを作成するなど、日頃から連携を図りながらともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に利用者本人・家族に事業所見学を勧めたり、職員が利用者宅を訪問するなど、利用者が事業所の雰囲気に馴染んでからの入居となるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と家族の様に接しながら生活歴を把握し、その人らしい生活となるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は利用者の希望や意向の把握に努め、本人本位の支援となるよう取り組んでいる。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	カンファレンスへの利用者家族の参加を呼びかけ、意見や要望を聞きながら介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月ごとの定期的な見直しを実施するとともに、利用者の健康状態の変化に応じてそのつど話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	利用者本人・家族の要望を聞きながら、支援する体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者本人・家族の希望に応じたかかりつけ医への受診支援を行っている。また、家族に医療機関や受診時の情報提供を行うなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化・終末期に向けた方針について、入居時に家族に説明し、同意書を交わしている。また、利用者の健康状態に変化がある時は、介護計画の見直しとともに、重度化・終末期に向けて家族と話し合いが持てる体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は利用者への声かけ等に配慮し、プライバシーを損ねることのないように徹底している。また、個人情報保護に関して事前に家族に説明し、同意を得ている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	事業所での基本的な日課はあるが、利用者のペースを大切に、一人ひとりの希望に応じた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、調理・配膳・食器洗いなどを職員と一緒にやっている。また、利用者の嗜好を考慮した献立を作成し、旬の食材を使用するなど食事が楽しみなものになるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯など、利用者の希望に応じた週に2～3回の入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力に応じた役割の支援を行うとともに、趣味の活動・町内会の活動等を実行的に行えるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・畑作業など、利用者の体調や気分に合わせた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間は施錠しており、来訪者にはインターホンで対応している。また、音感センサーを設置するなど工夫し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、防災訓練を実施しているとともに、月ごとに重点項目を決め、防災に留意している。また、職員は年に1度、救急救命講習を受講し、緊急時に対応できるよう備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録しており、職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には絵画を飾り、共用空間には季節ごとの装飾品により、利用者が生活感や季節感を感じられるよう工夫している。随所にソファを設置し、利用者が思い思いの場所で寛げるよう配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みのたんす・ちゃぶ台・鏡台等が持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるよう工夫している。		

 は、重点項目。